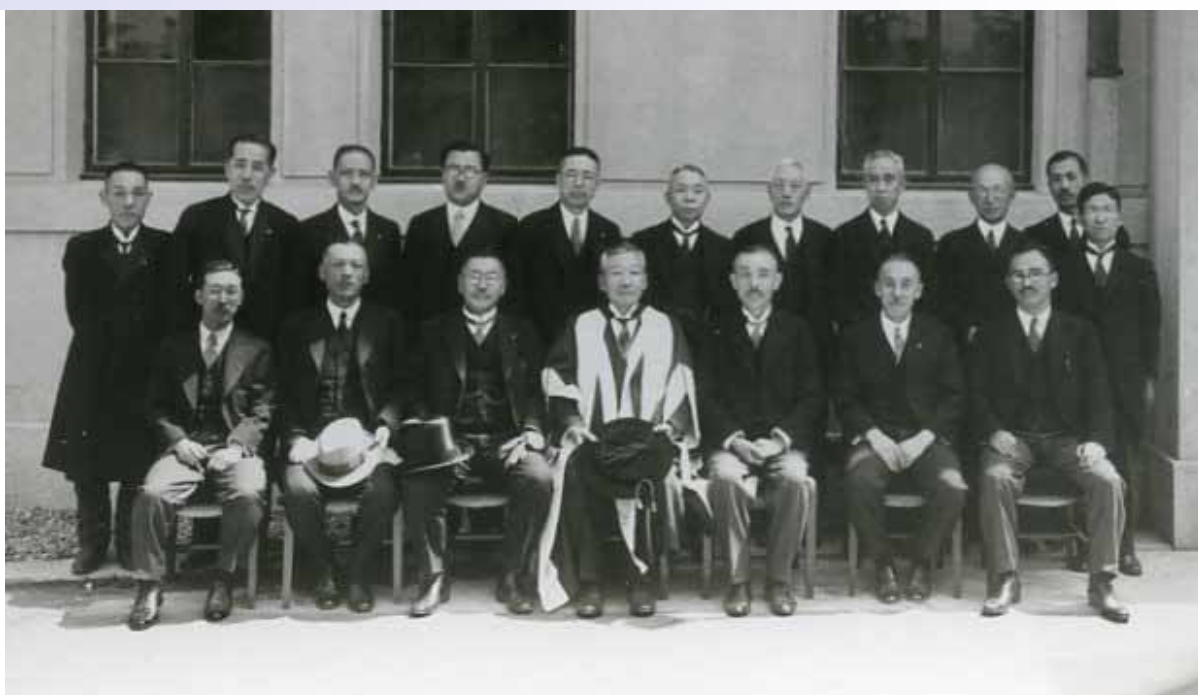


大阪大学 文書館設置準備室だより

第8号

2011.2.28

目次	大阪帝国大学の開学…………… 1	名誉教授インタビュー事業について 菅 真城……………14
	懐徳堂・適塾と大阪大学 菅 真城……………2	業務日誌（抄）……………15
	中国上海市における歴史的資料の保存 状況に関する調査報告 阿部武司・老川慶喜…………… 4	移転のお知らせ……………16
	受贈刊行物…………… 8	大阪大学文書館設置準備室員名簿 16



大阪帝国大学の開学

1931（昭和6）年5月1日、大阪帝国大学が創立されました。創立時は、医学部、理学部の2学部でした。同日午前10時30分から、医学部大会堂で開学式が挙行されました。式には、田中隆三文部大臣、柴田善三郎大阪府知事、関一大阪市長ら約370名の参列者に加え、教職員・学生約400名が出席しました。長岡半太郎総長は開学式の式辞で、阪大の創設事情や使命、総長としての抱負を述べましたが、それは総合大学が大阪に誕生したことの意義や今後の課題を強調したものでした。

写真は、開学式当日の記念写真です。前列中央の長岡総長は、ケンブリッジ大学名誉博士の緋色のプロフェッサー・ガウンを着ています。（菅 真城）

懐徳堂・適塾と大阪大学

大阪大学文書館設置準備室講師 菅 真城

はじめに

本年（2011年）、大阪大学は創立80周年を迎えました。今を遡ること80年前、1931（昭和6）年5月1日に、大阪帝国大学は医学部・理学部の2つの学部で創設されたのです。2年後には大阪工業大学を母体として工学部が設置されました。

創立80周年を記念して、5月1日の記念式典をはじめとして、本年は多彩な記念行事が展開されます。鷺田清一総長は「大阪大学創立80周年にあたって」、「大阪大学は、江戸時代末期、商都・大坂の北船場にあった当時最高の蘭学塾『適塾』を原点とし、さらに遡って、大坂の学びの象徴『懐徳堂』の精神を汲みつつ、昭和6年（1931年）に大阪帝国大学として大阪の政財界や市民の熱烈なご支援をいただき産声をあげました」と述べています。「適塾」を「原点」とし、「懐徳堂」の「精神を汲」むとは、一体どういうことなのでしょう。

1. 懐徳堂と適塾

まず、懐徳堂・適塾と大阪大学がどのような関係にあるのか、事実関係を簡単に押さえておきましょう。

懐徳堂は、1724（享保9）年に学問好きの5人の町人有志が出資して創設した町人のための学校です。1869（明治2）年には閉鎖されましたが、明治末年には西村天囚（時彦）らによって復興が企てられ、懐徳堂記念会を結成、1916（大正5）年に重建懐徳堂が建設されました。西村は、懐徳堂は大阪の文科大学であるので、大阪に文学部ができた時にはそれに合流すべきだと考えていました。1948（昭和23）年に大阪大学に法文学部が設置され、翌1949年には文学部が独立しました。これを機会に、懐徳堂記念会から大阪大学に蔵書36,000冊が寄贈されました。懐徳堂と大阪大学との関係は、この蔵書の寄贈によるものです。

適塾は、蘭方医緒方洪庵が1838（天保9）年

に大坂に開いた蘭学塾です。洪庵は1862（文久2）年に江戸に赴きますが、その後も1886（明治19）年頃まで塾生の教育が行われていました。これより先、1869年に大阪府が仮病院・医学校を設立した際には、洪庵の嗣子惟準、義弟郁蔵、養子拙斎、その他門人たちがこれに参加しました。したがって、適塾と仮病院・医学校との間には人的系譜があり、仮病院・医学校はその後大阪医科大学等、幾多の変遷を経て、大阪大学医学部・同附属病院となりました。また、適塾の建物と敷地は、1942（昭和17）年に大阪帝国大学に寄付されています。

2. 司馬遼太郎と適塾

大阪外国語学校（現在の大阪大学外国語学部）の卒業生である司馬遼太郎も、適塾を大阪大学の前身と考えていました。1969（昭和44）年に発表した小説『花神』は、次の一節で始まります。

「適塾」

という、むかし大坂の北船場にあった蘭医学の私塾が、因縁からいえば国立大阪大学の前身ということになっている。宗教にとって教祖が必要であるように、私学にとってもすぐれた校祖があるほうがのぞましいという説があるが、その点で、大阪大学は政府がつくった大学ながら、私学だけがもちうる校祖をもっているという、いわば奇妙な因縁をせおっている。

江戸期もおわりにちかいころ、大坂で、
「過書町の先生」

といわれた町の蘭方医緒方洪庵が、ここで言う校祖である。

実は、適塾を大阪大学の前身とする考え方が広く流布したのは、この司馬の考えが影響したのではないかと思われまます。大阪大学が懐徳堂・適塾との関係をどのように認識していたかは、

時代によって異なっているのです。

3. 懐徳堂・適塾の「発見」

では、大阪大学が自らの出発点をどのように認識していたか、そしていつから懐徳堂・適塾を源流として「発見」していったかを、沿革史を中心素材に検討していきましょう。

大阪大学の沿革史で最も古いのは、西尾幾治編著『大阪帝国大学創立史』（恵済団、1935年、2004年に大阪大学出版会から復刻）です。西尾は大阪医科大学幹事として帝国大学設立に奔走し、大阪帝国大学が設置されると初代の事務官となりました。この西尾による『大阪帝国大学創立史』には、懐徳堂・適塾についての記述は見られません。西尾は、大学（大阪医科大学）の沿革を、1869（明治2）年の仮病院・医学校に求めています。大阪帝国大学創設に奔走した当事者は、大阪帝大と懐徳堂・適塾との間に何の関係も見出していなかったのです。

1956（昭和31）年に刊行された『大阪大学二十五年誌』では、適塾と仮病院・医学校の人的系譜から、適塾を大阪大学医学部の始まりと捉えています。懐徳堂を大阪大学の源流とする歴史認識は見られません。正田建次郎総長（第6代）による「序」にも、「適塾以来の輝かしい伝統と若々しい熱意をもって、苦難の多いこの25年の発展の一路をたどりながら乗り越えてきました。」とあり、適塾のみを大阪大学の源流とみなしています。今村荒男第5代総長は、同書に寄せた文章の中で、「明治2年に文部省直轄の大阪病院が創立され診療の他に伝習と称して医学教育もおこなわれその後身が現在の阪大医学部と云い得るが、東大および京大が以前の帝国大学令の発布による、総合大学としての出発を起源とする例に従えば、大阪帝国大学の後身大阪大学の創立は25年前と云い得る。」と記しています。今村総長の時代には、懐徳堂文庫の寄贈を受け、今村自身、適塾を大阪大学の医学・理学的諸学部の源流として、懐徳堂を文系諸学部の源流として表彰していきたいと、機会あるごとに述べていました。しかし、『大阪大学二十五年誌』という公式の沿革史においては、阪大の源流をあくまでその制度的なものに求め、懐徳堂・適塾に求めることは慎んでいたのです。

大阪大学におけるこれまでで最も本格的な沿革

史編纂事業は、50年史編纂事業です。1983（昭和58）年に刊行された『大阪大学五十年史部局史』の山村雄一総長（第11代）による序文は、大阪大学の源流を懐徳堂・適塾に求めています。『部局史』本文の記述では、各学部の源流を懐徳堂・適塾には求めています。また、懐徳堂・適塾と大阪大学との関係についての定説は形成されていないのです。こうした大阪大学の歴史認識に大きな変化をもたらしたのは、1985（昭和60）年に刊行された『大阪大学五十年史 通史』であったと思われます。同書では、懐徳堂・適塾を生んだ近世大坂の学問的伝統と風土が近代へ継承され、大阪大学へとつながっていったと理解しています。山村雄一総長による「序文」には、適塾を理科系の、懐徳堂を文科系の源流とする理解が示されています。『通史』本文では、適塾を理科系の、懐徳堂を文科系の源流として区別する見方は採っていません。

創立60周年を記念して、1991（平成3）年には『OSAKA UNIVERSITY 60』が刊行されます。同書の「序文」において熊谷信昭総長（第12代）は、司馬遼太郎の『花神』も引用しながら、「我々は懐徳堂をもって本学の文科系諸学部の源流とみなし、適塾をもって本学の理科系諸学部の源流とみなしている」と述べています。

創立70周年を記念して2001（平成13）年に刊行された『大阪大学創立70周年記念写真集』の岸本忠三総長（第14代）の「総長の言葉」には、懐徳堂・適塾の精神を大阪大学全体が受け継いでいることが表明されており、懐徳堂＝文科系、適塾＝理科系という区別は見られません。

現在の大阪大学の各種刊行物やウェブサイトでも、懐徳堂・適塾が大阪大学全体の精神的源流とする認識が一般的です。

おわりに

大阪大学が懐徳堂・適塾との関係をどのように捉えてきたか、まとめておきます。

大阪帝国大学創立時には、自らの大学の源流を近世の懐徳堂・適塾に求めるという意識は全く存在しませんでした。その後、適塾と仮病院・医学校との人的な継続性から、適塾を医学部の、ひいては大阪帝国大学の濫觴とみなすよ

うになります。戦後、懐徳堂文庫の寄贈を受けたことにより、文科系、特に文学部と懐徳堂とを結びつける歴史観が形成されます。しかし、文科系の歴史が浅いこと、そして適塾と比べて懐徳堂との関係が蔵書の寄贈という希薄さによるものと推測されますが、懐徳堂を大阪大学の源流と見る歴史観はなかなか形成されません。その後、文科系＝懐徳堂、理科系＝適塾、と2分するとらえ方が出てきます。このとらえ方は、現在においても一部見受けられますが、現在では大阪大学全体を懐徳堂・適塾の系譜・精神をひくとするとらえ方が定着しています。このように自らの歴史を近世まで遡って求めようとする態度は、帝国大学としての歴史の浅さ（内地6番目の帝国大学として設置）に起因するコンプレックスの裏返しかもしれません。また、大阪という土地の、東京や京都に対する対抗意識の裏返しかもしれません。

しかし、帝国大学でありながら、大阪の市民や財界の支援によって創設された大阪大学の成り立ちは、大坂町人たちによって設立された懐徳堂・適塾の設立やその自由な学風とリンクしているところがあります。現在の大阪大学が、懐徳堂・適塾を自らの精神的源流と位置づけていることは、大学のアイデンティティを確立しようとする行為でもあります。しかし、大学の歴史やアイデンティティというのは、ただ単に古ければよいというものではありません。また、懐徳堂・適塾のみでなく、各時代の大阪（帝国）大学の姿を明らかにする必要があります。歴史資料に基づき、正確な歴史を認識したうえで、将来を展望する。創立80周年に当たって、私たちにはそういうことが求められているのではないのでしょうか。そのためにも必要なものが、アーカイブズ（文書館）なのです。

中国上海市における 歴史的資料の保存状況に関する調査報告

大阪大学文書館設置準備室長、経済学研究科教授 阿部 武司
元・立教学院史資料センター長、立教大学経済学部教授 老川 慶喜

私たちは、日本学術会議の経済学委員会の下に設置された現代経済政策史資料適正促進保存分科会（委員長：尾高煌之助一橋大学名誉教授）の活動の一環として、本年（2011年）1月に中国上海市の3つの機関を訪問し、実務担当者から歴史的資料の保存状況に関する詳しい説明を受けることができた。以下はその記録である。

（1）上海図書館（1月19日午後3—5時）

最初の訪問先は上海図書館であった。上海淮海中路にそびえ立つ立派な建物の会議室で沈萌云（国際交流处处长）、周啣（国際交流処）、

陳建貨（歴史文献中心研究館員。「中心」はセンターの意味）の3氏にお会いした。通訳は周氏が担当して下さった。以下の記述は、主に陳氏の談話の要約である。

1. 初めに、上海図書館における歴史的資料の取扱いに関する以下の説明があった。同図書館には歴史文献センターが設置されており、そこには①1949年以前の出版物約300万冊、②古書（糸で綴られた書籍）約170万冊、③珍本または善本（清朝の乾隆帝以前の古書）約17万冊が所蔵されている。古書の冊数では上海図書館は、全国図書館中、北京の国立図書館に次ぐ第2位である。中国政府は、古書収集には法律も

制定して力を入れており、古書のために収集の費用だけでなく、多額の補修費も出している。古書は档案馆にも納められているが、民間にもかなり存在し、上海図書館はそれらを購入している。歴史的文献は中国の文化の一部であり、その収集は図書館の責務である。

上海図書館が誇る歴史的資料の1つに、洋務運動を担い、上海交通大学を創立した盛宣懐の文書があり、すでに8年間その整理を続けている。上海档案馆にも盛宣懐の資料の一部が保管されている。

2. つぎに、中国政府の図書館に対する政策につき以下の説明をうかがった。上海図書館だけでなく中国の図書館全体で、予算は毎年5～10%増加している。上海図書館の現在の年間予算は約2億人民元である。中国政府は、文化の発展にはまず図書館への投資が必要と考えており、歴史的資料の保護にも力を入れている。

3. 続いて職員の人事に関する説明があった。



上海図書館
老川（左）と阿部

【職員数】

上海図書館の正職員は約800人（歴史文献センターでは約80人）、パートタイマーと派遣従業員が約500人（同じく約40人）である。

【アーキビストの扱い】

大部分の職員は図書館司書であり、技術者もいるが、アーキビストに相当する役職はとくに設けられていない。

【職員の育成】

日本で司書になるのには資格が必要だが、中国ではそれはない。ただし、図書館職員になるには最低限大学卒業の経歴は必要である。その際何を専門に学んできたのかはあまり問われないものの、就職後5年間、様々な資格を取得しなければ館員にはなれない。具体的には上海図書館内の教育センターで7つの授業科目を履修し、厳しい試験に合格しなければならない。この教育センターは上海市内のすべての図書館の職員を対象としており、そこでの試験は上海市の統一試験である。5年間の訓練ののちには、さらに5年間、論文作成、コンピュータ実習、外国語の訓練などの研修を経て副研究館員となる。研修には年平均85時間の出席が必要であり、時間をかけて各職員の専門が確立されていく。

【職員の構成】

正職員計約800人中、副研究館員が2割、館員が4割、その他が4割であり、これら3階層ごとに俸給や賞与が異なる。館長には現在のところ上海図書館のスタッフ出身者が就任している。

4. そのほか、上海図書館全体に関するいくつかの特徴の紹介があった。

【施設】

上海図書館は、市民のみならず企業や政府にもレファレンス等のサービスを提供している。1996年に旧上海図書館と科学技術情報センターが合併して現在の上海図書館となり、道路の向かい側にある古い建物から現在の新しい建物（建物面積約8万3000㎡）に移った。通常の書籍の閲覧室のほか、歴史的資料及び家譜（家系図）の閲覧室も整備されており、資料のデジタル化も進んでいる。入館者は1日約2～3千人である。

上海図書館でも建物のスペースは次第に不足しつつあり、図書保管用に郊外の建物を使用しているが、歴史文献センターではこの問題は

深刻ではない。

【出版社の納本】

日本では国立国会図書館への出版社の納本が法律で義務付けられているが、中国ではそうした法律はない。ただし上海図書館は、上海で出版された書籍を関係者に原則として納入させている。

【他の機関との関係】

米国の歴史協会に相当する機関はないが、政府の「中国古籍保護中心」はあり、国立図書館や上海図書館もその下に置かれている。民間にも家譜の研究機関等はあるものの、それらの資金的基盤は強くない。

上海市内には2つの市立図書館がある。この上海図書館、および児童図書館である。その下位の区レベルでは各区に1か所の図書館が設置されており、さらにその下位の、日本でいえば町村レベルでは合計200以上の公立図書館が存在する。各図書館で書籍の相互貸借を行っているが、人事面での交流はない。

（2）上海市档案館（1月20日10—12時）

翌日は、上海でも珍しいとのことだったが、雪であった。午前中に訪問したのは上海市档案館である。档案館は日本でいう文書館に相当する機関であるが、上海のそれは1959年に組織ができ、档案局が行政の一部局として档案行政を担っていた。上海市档案館は2004年に開館し、外灘の旧フランス租界のあった中山東二路にある。11階建ての立派な建物で、1～2階が展示室（近代上海の歴史）、5階が閲覧室になっている。

上海市档案館では、曹勝梅（辦公室副主任）、石磊（利用服務部副主任・博士）、郭咏軍（組織人事處處長）、鄭澤青（档案接收征集部主任・副研究館員）の4氏からお話を聞くことができた。

1. 最初に石磊氏から档案館の業務や組織などの概要についてつぎのような説明がなされた。档案館の主要な業務は、①資料保存、②閲覧などのサービス業務、③図書館員・アーキビストの訓練などである。それぞれの業務は以下のようになっている。

【資料保存】

1949年の新中国成立以前の文書を歴史資料とし、その収集・整理・保存を進めている。現

在、280万冊以上、69km以上の歴史資料が保存されている。書庫は、上海郊外の虹橋にある。

なお、1949年以降の文書について、作成後30年を経過したものは公開を原則としている。近年は1949年以降の文書を利用した研究も増えている。

【閲覧などのサービス業務】

档案館の利用者の過半数は研究者（含・大学院生）および外国人である。私たちが見学したときも、数名の大学院生が档案を閲覧していた。また、一般大衆へのサービスとして毎年展示会を開催している。

【図書館員・アーキビストの訓練】

档案館の内部に訓練センターがあり、政府の管理部門として活動をしている。300人の職員がいるが、文書の修復などに従事する技術訓練所の職員は十数人である。大学卒業以上の専門を要求している（とくに専門分野は問わないようである）。

2. つぎに郭咏軍氏から人事に関する説明がなされた。

档案館は政府機構で、かつて職員には「局」に属するものと「館」に属するものがあり、局に属するものは公務員で資料の保存や展示に従事していた。また、館は事業単位であり、そこに属する職員は「低級」「中級」「高級」に分かれ、低級は試験で選抜されるが、中級と高級は「審査委員会」での評価で決定されていた。

ただし、この方式は2010年に新方式に取って代わられた。新方式によれば、職員は全員公務員となり、上海市の統一試験、面接によって選抜される。そして、仕事振りによって上司の推薦によって中級となり、さらに高級になるには外部審査を必要とする。高級レベルに達するには、大学の研究者らとの共同研究などに従事することが必要である。なお、上海市档案館のなかに研究者を集めて研究を組織・管理する研究機構があり、同機構には政府資金による援助がある。

3. 最後に、鄭澤青氏から歴史資料の範囲や性格についてつぎのような説明がなされた。歴史資料には、①上海市政府の档案、②上海で開催されたイベントに関する档案、③企業の档案、④大学や病院などを含む民間の档案がある。民間資料では、租界に関する資料や1930年代以降の同業組合に関する資料などがあり、公

開されている。

1987年に国家档案法が制定され、上海市政府は91年に資料収集の範囲を決め、95年に上海市档案条例が公布された。档案についても政府の力が強く、日本の個人情報保護法にあたるようなものはない。その他、民間人から寄贈された資料もある。

企業資料は県レベルのものは10年経過すると区に移され、さらに20年を経ると档案馆に移って公開される。企業資料に関しては、国营企業のものも多く、民間企業のは少ない。個人企業や貿易団体の資料は第3者機関である仲介機構を通じて保存されている。

以上のような説明を受けたのち、主として①文書の保存・廃棄の基準、②アーキビストのかかわり、③上海档案馆の問題点などに関して質問をし、つぎのような説明を受けた。

【文書の保存・廃棄の基準】

文書は、①永久保存、②長期保存（30年）、③短期保存（10年）に分けられ、永久保存文書が档案馆に移管される。移管される文書の量は、欧米よりも多いと思われる。

【アーキビストのかかわり】

以上の文書の分類は、専門の行政管理委員によってなされる。行政管理委員は①行政の専門家、②企業の責任者（機構）、③社会からの専門家からなり、アーキビストという言葉はないが、ハイレベルの「档案馆研究员」「档案管理委员」が参加する。ちなみに、上海档案馆の鄭澤青氏も参加しているとのことである。なお、国家档案法の制定以後、档案馆職員のレベルが上がり、待遇もよくなった。档案馆の予算も増えている。

【国家档案法の問題点】

しかし、国家档案法には、①文書の収集の範囲が狭い、②利用者が研究者に限られている、③電子化した資料を集めきれないなどの問題点があり、改善に取り組んでいる。

（3）上海社会科学院図書館（1月20日14—16時）

1. 最後に訪問したのは上海社会科学院図書館である。朱婷（上海社会科学院副研究员）ならびに陳佳（上海社会科学院図書館館員）の両氏から初めに、所蔵されている歴史的資料に関

する以下の説明があった。著名な研究機関である上海社会科学院が1958年に淮海中路に創立された際、その図書館（4階建てで、1階が雑誌等の閲覧室。その他はすべて開架の書庫）も市内の徐匯区中山西路に設置された。そこには清朝の文献も含む、100年以上前に出版された主に経済と法律に関する資料が集められており、柱になったのは①聖約翰大学（St. John's University。現、上海華東政法大学）に併設されたキリスト教系の聖マリア女校の資料である。上海社会科学院図書館では、②1911年以前の古書、③1911—49年間に出版された近代資料（平装書）とともに①を大切に保管しているが、書籍のみが収集の対象であり、たとえば政府の資料等は档案馆に集められている。民国期の文献が中心であり、1945年以降の国营企業の資料も多いが、戦時期のものは比較的少ない。

2. 事務は5部門に分けられる。(1) 採訪部（研究員の意見を聴きつつ、潤沢な予算により資料を収集する。）(2) 編目部（目録の作成）、(3) 読者服务部（来館者へのサービスの提供）、(4) 系統網絡（連絡）、(5) 弁公室（事務室）。なお、淮海中路にある上海社会科学院の総部（本館）には、図書館はなく近刊の雑誌を閲覧する「閲覧部」が設置されているのみである。

3. 続いて人事に関して以下の説明がなされた。上記(1)には次の5つのレベルの専門家計40人が勤務している。①研究館員（トップ）、②副研究館員、③館員、④助理館員、⑤図書館



上海社会科学院図書館

理員であり、①と②が合計約2割、③が5割である。これらの職務については上海図書館と同様の人事規則があてはまり、③になるまでは5年間の研修と統一試験の合格が必要である。なお現在、③が不足している。

最後に、今回の調査に際しては上記3機関の関係各位のほか、大阪大学大学院経済学研究科

で学ばれ、現在、南京財経大学国際経貿大学副教授を勤めておられる庄紅娟博士より多大なご助力を賜った。厚く御礼申し上げたい。また、本調査にあたっては日本学術振興会科学研究費補助金（研究種目：基盤研究(C)、課題番号：21530334、研究代表者：尾高煌之助、研究課題：近・現代経済政策史資料保存の理論と方法）による助成を受けた。

受贈刊行物 (2010年8月～2011年1月)

大阪市立大学大学史資料室

大阪市立大学史紀要 第3号、都市問題研究連続シンポジウム第1回「恒藤恭の思想と学問の発展－文学青年から社会科学者へ－」

追手門学院大学

追手門学院の履歴書 文化人編・スペシャリスト編・企業人編、追手門経営論集 第16巻 第1号、追手門経済論集 第45巻 第1号、国際教養部紀要 第4号

学習院大学大学院人文科学研究科

アーカイブズ学専攻

「記憶を守り 記憶を伝える」学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻(リーフレット)、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻 平成22年入試説明会 講演「飛び込もう！アーカイブズの柱に」(ポスター・チラシ)

関東学院学院史資料室

関東学院学院史資料室ニュース・レター 第14号

皇學館館史編纂室

神宮皇學館大學 一昭和十五年～昭和二十年一、第六回学校法人皇學館館史編纂室資料展 展示目録

神戸国際大学学術研究会

経済経営論集 第30巻 第2号、神戸国際大学紀要 第79号

九州大学大学院統合新領域学府

2011年度 九州大学大学院統合新領域学府修士課程ライブラリーサイエンス専攻 学生募集要項 2011年4月入学者選抜、2011年(平成23年)4月設置 九州大学大学院統合新領域学府 ライブラリーサイエンス専攻設

置記念シンポジウム「ライブラリーを科学する」(チラシ・ポスター)

九州大学大学文書館

九州大学における学徒出陣・学徒動員

京都産業大学

サギタリウス Vol.49・50

京都大学大学文書館

京都大学大学文書館企画展「語りかけるアーカイヴズ」・「京大俳句」と一九三〇年代の京大(チラシ)、京都大学大学文書館だより 第19号

慶應義塾福澤研究センター

慶應義塾福澤研究センター資料(12) 奥山春枝「日本作文」答案、慶應義塾福澤研究センター通信 第13号

恵泉女学園史料室

史料室だより 第16号

工学院大学125周年史編纂委員会

工学院大学学園125年史資料ニュース 第3号

神戸女学院史料室

學報 No.160、学院史料 Vol.24

女子美術大学歴史資料室

女子美術教育と日本の近代 一女子美110年人物史一、TEXNH MAKPA 第2号 女子美術大学歴史資料室ニュースレター

大東文化歴史資料館

大東文化歴史資料館だより 第9号

拓殖大学

拓殖大学百年史 大正編

中央大学入学センター事務局 大学史編纂課

中央大学創立125周年記念展示「学びのたから中央大学の起源・絆・記憶」(チラシ・ポスター)

東海大学学園史資料センター

東海大学学園史ニュース 第5号、東海大学キャンパスものがたり No.1-3

東京経済大学史料室

大倉喜八郎撰 心学先哲叢集

東京大学史史料室

東京大学史史料室ニュース 第45号

同志社社史資料センター

第38回 Neesima Room 企画展「幕末と同志社ー薩摩藩邸址にあってー」(パンフレット・チラシ・ポスター)、公開講演会「島津家と近衛家ー京都から薩摩への文化伝承ー」(ポスター・チラシ)

東北大学史料館

東北大学史料館だより No.13、せんだい学生スポーツの黎明

東北大学東北アジア研究センター

東北大学東北アジア研究センター シンポジウム「歴史遺産を未来へ」(ポスター・チラシ)

東洋大学

井上円了センター年報 Vol.19

独協学園資料センター

第2回企画展「獨逸学協会学校と文化芸術家たちの群像」(ポスター)

長崎大学

寺島実郎責任監修リレー講座「世界の構造転換と日本の進路」(パンフレット)、CHOHO Vol.33・34、長崎大学心の教育総合支援センター公開シンポジウム「子どもの健やかなそだちのため～わたしたちに求められるもの～」(チラシ)

名古屋大学大学文書資料室

第20回名古屋大学博物館企画展 キタン創立90周年記念展「響け！総統の鐘」(チラシ)

南山学園史料室

一粒の麦は地に落ちてー名古屋聖霊短期大学35年の歩みー

南山大学史料室

南山大学史料室講演会 大学アーカイブズ「新時代」(ポスター)

広島大学高等教育研究開発センター

RIHE International Seminar Report No.14・15

武蔵野美術大学大学史史料室

Archive & Archives 01・02、武蔵野美術大学大学史史料集 第八集「金原省吾日記」昭和22～25年

国文学研究資料館

史料目録 第90集

全国大学史資料協議会東日本部会

大学アーカイブズ No.43、日本の大学ーその設立と社会ー、研修叢書第11号 大学史の社会的使命

あおぞら財団

資料館だより No.32～34、日中環境問題サロン2010「対話から築く日中の環境教育の協働」(チラシ)

愛知県公文書館

愛知県公文書館だより 第15号

尼崎市立地域研究史料館

地域史研究 第110号

大阪市公文書館

大阪市公文書館研究紀要 第22号、大阪市公文書館年報 第22号、大阪市公文書館特別展示「住みやすい快適な都市環境を求めて」(チラシ)

沖縄県公文書館

沖縄県公文書館だより Archives 第39号

神奈川県立公文書館

平成21年度 神奈川県立公文書館年報、神奈川県立公文書館だより 第24号

京都府立総合資料館

総合資料館だより No.165・166

国立公文書館

アーカイブズ 第41・42号

寒川文書館

文人町長と工業市街地化 ―寒川町制施行70周年記念誌 1940～2010―、寒川文書館だより Vol.8、平成21年度 寒川文書館年報 第3号

東京都公文書館

東京都公文書館だより 第17号

栃木県立文書館

文書館だより 第48号

長野県立歴史館

長野県立歴史館だより 秋号 Vol.64・冬号 Vol.65、秋季企画展「東の牛伏寺 西の若澤寺」(チラシ・ポスター)、平成22年度 信州ふれあい歴史講座(チラシ)、やさしい信濃の歴史講座 信濃人物伝(チラシ)、平成22年度―信州の歴史遺産IV―文字のちから冬季展(チラシ・招待券・ポスター)

福井県文書館

文書館だより 第16号、福井県文書館資料叢書7 越前松平家家譜 慶永4、福井県文書館年報 第7号 平成21年度

福島県歴史資料館

福島県史料情報 第28号、災害文化と地域歴史遺産―阪神淡路大地震から考える―(チラシ)、平成22年度 地域史研究講習会(チラシ)、平成22年度収蔵史料展 新公開史料2010(チラシ)

北海道立文書館

館報「赤れんが」 No.46

山口県文書館

文書館ニュース No.44、山口県内所在史料目録 第34集、山口県文書館研究紀要 第37号

和歌山県立文書館

和歌山県立文書館だより 第28・29号

大阪大学総務部

大阪大学 PROFILE 2005・2006・2008・2009・2010(要覧)、OSAKA UNIVERSITY PROFILE 2008～2010(要覧)、人権問題について 2002・2003・2005～2007

大阪大学企画部

平成6年度 講座及び学科目等の教員定員調、新・教養書シリーズ「阪大リーブル」(リーフレット)、大阪大学学生交流棟 平面図 (リーフレット)、大阪大学の国際

戦略、大阪大学環境報告書 2006、大阪大学・国際交流に伴う危機管理対応マニュアル、銀杏だより 第32号、共通教育だより No.26・27、OUTLINE 2004 大学のアウトライン、大阪大学 施設緊急整備5か年計画、特定非営利活動法人 臨床研究・教育支援センター設立のご案内(パンフレット)、特定非営利活動法人 臨床研究・教育支援センター 2004年5月 活動報告、特定非営利活動法人 臨床研究・教育支援センター 定款、阪大フロンティア研究機構(パンフレット・チラシ)、大阪大学大学院高等司法研究科・法科大学院 2006(パンフレット)、マチカネワニ資料集、大阪大学プロフィール 2005、大阪大学 2003・2004、WPI Immunology Frontier Research Center (要覧)、Annual Report of IFRc 2008 FY(年報)、大阪大学職員録 平成22年、阪大NOW No.119～122、平成21事業年度財務諸表、阪大ニューズレター 創刊号～No.20・23～26・30～33・39・49・50、阪大NOW No.65～69・73～82・85～86・92～95、阪大NOW・大阪大学 学報 (平成15・16年) 目録、第一回 革新的研究教育基盤機器開発整備事業 ならびに リユース研究教育基盤機器整備報告会 ―阪大開発先端機器とリユース機器の全学利用に向けて―

大阪大学国際部

OSAKA UNIVERSITY 1991-1992・1992-1993(英語版小冊子)、OSAKA UNIVERSITY BULLETIN 1992-1993・1995-1996・1997-1998、国際交流に伴う危機管理対応マニュアル 平成20年度発行(2008年)、The 80th Anniversary Commemoration of the Founding of Osaka University(パンフレット)

大阪大学財務部

平成20・21事業年度 国立大学法人大阪大学 財務レポート2009・2010(リーフレット)、平成18・21事業年度財務諸表

大阪大学情報推進部情報企画課

サイバーメディアセンター年報 2009年度 No.10、サイバーメディアセンターフォーラム No.10

大阪大学学生部

キャンパスライフ 2010、キャンパスライフ 2003 (学部生用・大学院生用)、平成22年度 大阪大学大学院高度副プログラム、大阪大学教職課程ブックレット① 教職課程への招待―教育職員免許状取得ガイド、大阪大学教職課程ブックレット② 教育実習ノート、大阪大学教職課程ブックレット③ 養護実習ノート、大阪大学教職課程ブックレット④ 介護等の体験ガイド・体験ノート、平成15～17・21年度 課外研究奨励費報告書、博

士学位論文 内容の要旨及び審査結果の要旨 第94集

大阪大学免疫学フロンティア研究センター

IFReC Profile 免疫学フロンティア研究センター要覧、IFReC Profile 免疫学フロンティア研究センター要覧(英語版)、Annual Report of IFReC 2009 FY (年報英語版)

大阪大学学際融合教育研究センター

平成21年度 学際融合教育研究センター 活動報告書、平成21年度 学際融合教育シンポジウム実施報告書、平成21年度 学生交流学際融合教育セミナー実施報告書、大阪大学の学際融合教育への取組み(パンフレット・英語版パンフレット)、学際融合教育シンポジウム「副専攻教育について考える」

大阪大学安全衛生管理部

平成22年度大阪大学防災訓練(ポスター)、Preparing for Disasters、平成22年度 大阪大学安全衛生講演会

大阪大学埋蔵文化財調査委員会

待兼山遺跡1~4、久留米藩蔵屋敷跡、大阪大学埋蔵文化財調査室 年報1

大阪大学附属図書館

大阪大学附属図書館要覧 2010ダイジェスト版(リーフレット)、大阪大学図書館報 Vol.44 No.1・2、Current News No.88~92、大阪大学附属図書館クリスマスコンサート2010 室内アンサンブルの夕べ(チラシ)

大阪大学大学院文学研究科・文学部

文芸学研究 第14号

大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部

2011年度 大阪大学人間科学部私費外国人留学生(研究生)出願要項、平成22年度 大阪大学大学院人間科学研究科科目等履修生出願要項、平成22年度 大阪大学人間科学部科目等履修生出願要項、平成22年度 大阪大学大学院人間科学研究科研究生出願要項、平成22年度 大阪大学人間科学部研究生出願要項、文部科学省「大学院教育改革プログラム」(平成19年度~平成21年度)人間科学データによる包括的専門教育(パンフレット)

大阪大学大学院医学系研究科・医学部

和風会誌 第22・26・28~31・41~53号、加齢医学 平成10~12・14~21年度年報、未来医療センター便り 2003年秋冬・2004年春夏秋・2007春夏秋・2008春冬・2009春、大阪大学医学部第一内科開講100周年記念

誌、平成20・22年度 大阪大学医学部医学科授業概要(シラバス)、平成22年度 大阪大学医学部医学科第2年次9月学士編入学学生募集要項、平成23年度 大阪大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻学生募集要項、平成23年度 大阪大学大学院医学系研究科博士課程学生募集要項、平成22年度 修士課程(医科学専攻)履修案内、大阪大学医学部要覧 平成3・13年度、大阪大学大学院医学系研究科・医学部要覧 2005・2009、大阪大学大学院医学系研究科・医学部要覧 2008・2010(英文)、会誌 第27・29・31・32号、大阪大学医学伝習百年史 微生物病研究所、大阪大学医学伝習百年史 臨床講座・診療部門、大阪大学医学伝習百年史 基礎講座・研究施設、大阪大学医学伝習百年史年表、汲泉 第16~18・20~30・30(別冊)~34・37~44号、松田暉教授退任記念 大阪大学臓器制御外科学教室業績集、施設便り 2010(年報)

大阪大学医学部附属病院

Handai Hospital 阪大病院ニュース 第39・40号、大阪大学医学部附属病院 要覧 2010、おーいNET No.90~93

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部

2011 大阪大学歯学部、平成23年度 学生募集要項 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校 (パンフレット)

大阪大学大学院工学研究科・工学部

平成23(2011)年4月入学博士前期課程学生募集要項(学部3年次生を対象とする特別選抜)、大阪大学大学院工学研究科 平成23(2011)年4月入学博士後期課程学生募集要項第2次募集、大阪大学工学部研究業績集 第2集、大阪大学工学部/工学研究科研究業績第5集、大阪大学大学院工学研究科研究業績8・9集、大阪大学研究協力テーマ一覧 第2集、大阪大学工学部 ー現状と展望ー、電子情報サービス利用の手引 TECHNOLOGY REPORTS OF THE OSAKA UNIVERSITY Vol.41・49、工学研究科技術シーズキーワード集(学内配布版)、OSAKA UNIVERSITY BULLETIN 1989-1990、阪大NOW No.98、阪大ニューズレター No.28、大阪大学工学研究科/工学部ニュース 第4・5号、先端通信エキスパート養成プログラム中間報告書、三十年のあゆみ、大阪大学五十年史 通史・部局史、大阪大学グローバルCOEプログラム「次世代電子デバイス教育研究開発拠点」事業推進研究者紹介、1st Global COE International Symposium Electronic Devices Innovation EDIS2008 Proceedings、2nd Global COE International Symposium Electronic Devices Innovation EDIS2009 Proceedings、平成19・21年度 実

績報告書 グローバルCOEプログラム「次世代電子デバイス教育研究開発拠点」、中間報告書 グローバルCOEプログラム「次世代電子デバイス教育研究開発拠点」、大阪大学グローバルCOEプログラム「次世代電子デバイス教育研究開発拠点」(パンフレット)、DEVICE mail 1~8、大阪大学大学院工学研究科 平成24(2012)年4月入学博士前期課程推薦入学特別選抜学生募集要項、大阪大学職員録 昭和35~38・40~42・60~63・平成元~4・6・13~16年、大阪大学電話番号簿、大阪大学規程集、OSAKA UNIVERSITY BULLETIN 1982-1983、大阪大学一覧 昭和38・56-57年度、OSAKA UNIVERSITY FACULTY OF ENGINEERING 1979-1980、OSAKA UNIVERSITY 1985-86・1988-89(英語版小冊子)

大阪大学大学院言語文化研究科

平成22年度 大阪大学大学院言語文化研究科公開講座「教員のための英語リフレッシュ講座」(パンフレット)、平成22年度 大阪大学大学院言語文化研究科公開講座「教員のための英語リフレッシュ講座」、平成21・22年度 大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻(博士前期課程) 学生募集要項、平成21・22年度 大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻(博士後期課程) 学生募集要項、平成20~22年度 学生便覧

大阪大学大学院国際公共政策研究科

「国際公共を考える日」(チラシ)、OSIPP NEWS LETTER 2010年 秋号(No.55)

グローバルCOEプログラム

「生命環境化学グローバル教育研究拠点」

Save The Earth 創刊号 Vol.1~10、平成19・20年度実績報告書 大阪大学大学院グローバルCOEプログラム「生命環境化学グローバル教育研究拠点」

大阪大学産業科学研究所

大阪大学産業科学研究所要覧 2010、産研ニュースレター 第41号

大阪大学接合科学研究所

TRANSACTIONS OF JWRI Vol.39 No.1 2010、阪大接合研ニュースレター No.27

大阪大学低温センター

平成21年度 共同利用実験室・共同利用実験装置 研究成果報告書、大阪大学低温センターだより No.148~152

大阪大学ラジオアイソトープ総合センター

大阪大学ラジオアイソトープ総合センター 1983~1987・1993~2005・2007~2009・2009~(パンフレット)、大阪大学ラジオアイソトープ総合センター 利用年報 1991・1992・1994~2009、大阪大学ラジオアイソトープ総合センターRI センターニュース No.1~20、自己評価報告書 平成16~20年度、1987年 RI 利用報告書、大阪大学 ラジオアイソトープ総合センター 10年のあゆみ

大阪大学環境安全研究管理センター

環境安全ニュース No.40

大阪大学国際教育交流センター

留学生センター 2009年度年報、OUSSEP CALENDAR 2010-2011、第16~18回 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、2010年度留学生日本語プログラム 履修ガイド、国際交流科目受講のすすめ、阪大生のための「海外留学ガイドブック」2009・2010年度版、第3回 大阪大学専門日本語教育研究協議会報告書、OUSSEP 2007-2008 APPLICATION PACKAGE、平成22年度 大阪府・吹田市 初任者研修における社会体験プログラム(大阪大学国際交流センター実施分)実施報告書、大阪大学国際教育交流センター(パンフレット)

大阪大学国際教育交流センターサポートオフィス

留学生・外国人研究者のためのポケットガイド、大阪大学サポートオフィス紹介パンフレット(英語版・リーフレット、スペイン語版・リーフレット、タイ語版・リーフレット、簡体中文版・リーフレット、繁体中文版・リーフレット、ハンガリー版・リーフレット)、留学生・外国人研究者のためのリビングガイド、教職員のための 留学生・外国人研究者受入れハンドブック

大阪大学生物工学国際交流センター

Annual Reports of ICME Vol. 1~7、Annual Reports of ICBiotech Vo.8~30、Microbial Utilization of Renewable Resources Vol.1~9、Biotechnology for Sustainable Utilization of Biological Resources in the Tropics Vol.10~17、International Cooperation and Education in Applied Microbiology、ユネスコ微生物学国際大学院研修講座 内部評価・外部評価 報告書 平成15年3月、Internal and External Evaluation for UNESCO International Post-Graduate University Course in Microbiology、第4回AIEJ/ユネスコ青年交流信託基金大学生プログラム(派遣)実施報告書 平成16年1月、第4回AIEJ/ユネスコ青年交流信託基金大学生プログラム(派遣)実施報告書 参考資料The

University Student Exchange Program of AIEJ/ UNESCO Funds-in-Trust for the Promotion of International Co-operation and Mutual Understanding (Outbound) Final Report、ユネスコバイオテクノロジー国際大学院研修講座 第2・3期実施報告書、Thailand-Japan Joint Workshop on Establishment of Bioproduction Research Center for Southeast Asian Bioresources (2007)、Thailand-Japan Joint Symposium on Bioproduction by Efficient Utilization of Thai Bioresources (2008)、Proposal on Efficient Utilization of Thai Bioresources、Proposal on Efficient Utilization of Thai Bioresources Appendix (Supplementary Volume)、Proceedings UNESCO Bangkok Conference on Capacity-Building in Life Science、Proceedings UNESCO Hanoi Conference on Capacity-Building in Life Science、Proceedings UNESCO Manila Conference on Capacity-Building in Life Science、Proceedings UNESCO Yogyakarta Conference on Capacity-Building in Life Science

大阪大学総合学術博物館

第12回 企画展「線の表現力」(ポスター大・小、チラシ)、特別展示 抵抗を縫う キルトにおける触覚の物語(ポスター・チラシ)、大阪大学総合学術博物館叢書 6 「東洋のマンチェスターから大大阪へ」

大阪大学先端科学イノベーションセンター

大阪大学先端科学イノベーションセンター(パンフレット)

大阪大学金融・保険教育研究センター

平成22年度10月入学 大阪大学金融・保険教育研究センター 科目等履修生高度プログラム「金融・保険」募集要項、Workshop “Mathematical Finance and Related Issues”(チラシ・ポスター)

大阪大学科学教育機器リノベーションセンター

第3回 革新的研究教育基盤機器開発整備事業ならびにリユース研究教育基板危機整備報国会ー阪大開発先端機器とリユース機器の学内外利用に向けてー(ポスター)

大阪大学世界言語研究センター

世界言語研究センター NEWS LETTER 第2号、大阪大学世界言語研究センター 論集 第4号

大阪大学核物理研究センター

RCNP ANNUAL REPORT 1997～2008、大阪大学核物理研究センター(英語版・パンフレット)、RCNP (パ

ンフレット)

大阪大学サイバーメディアセンター

大阪大学サイバーメディアセンター 計算機利用ニュース Vol.6 No.1

大阪大学レーザーエネルギー学研究中心

レーザー研の広場 No.4～6、Annual Progress Report 1996～2008

大阪大学生生活協同組合

阪大ウォーカー No.2～6・21～25・29・45～50・53・66・68～70・72・73・75～77・79・81・83～87・89～94

日本標準編集室

理科教室 12月号

懐徳堂記念会

第120回懐徳堂秋季講座「懐徳堂と適塾」(チラシ)、懐徳堂記念会創立100周年記念事業(チラシ・ポスター)、懐徳堂記念会創立100周年記念 懐徳堂展～大阪“知”の源流～(パンフレット・チケット)

旧制浪速高等学校同窓会

待兼山 青春の軌跡 (CD-ROM)、浪高同窓会報 第53号

社団法人 医学振興銀杏会(大阪大学医学部学友会)

学友会名簿 昭和39・44・50・54・56・59・62年度・平成3・9・12・15・18・21年度

日本アーカイブズ学会

研究集会 アーカイブズの構造を読み解くー編成・記述論の現在ー(チラシ)

松岡資明(日本経済新聞社文化部)

日本経済新聞 2010年8月7日付 記事 文化「国立大、公文書管理に困惑」

阿部武司(大阪大学)

大阪大学21世紀懐徳堂だより Vol.2

菅真城(大阪大学)

大阪大学経済学 第60巻 第2・3号、大阪大学経済学 第60巻 第3号 抜刷「小泉進名誉教授に聞くー大阪大学の思い出」

名誉教授インタビュー事業について

大阪大学文書館設置準備室講師 菅 真城

大阪大学文書館設置準備室では、名誉教授を中心とする先生方に大阪大学の歴史にまつわる事柄についてインタビューし、その模様をビデオ収録・録音する事業を行っている。これは元もと、現在理事・副学長をされている高杉英一氏が中心となって平成17年度から行っていたものであるが、文書館設置準備室が設置された翌年度の平成19年度からは、文書館設置準備室の業務として実施している。これまでにインタビューしたのは、以下の先生方である。

伏見康治（理学部）、伊藤順吉（理学部・基礎工学部）、関集三（理学部）、平尾泰男（理学部）、芝哲夫（理学部）、金森順次郎（理学部・総長）、梅溪昇（文学部）、村田義人（旧制大阪高等学校）、大久保昌一（工学部・法学部）、五島忠久（教養部）、脇田修（文学部）、是永駿（大阪外国語大学）、大塚穎三（理学部・教養部）、小泉進（経済学部）、中野貞一郎（法学部）、厚東洋輔（人間科学部）、中岡省治（大阪外国語大学）、徳永恂（文学部・人間科学部）、竹岡敬温（経済学部）、川島慶雄（法学部・国際公共政策研究科）、山中永之佑（法学部）、熊谷信昭（工学部・総長）、松岡博（法学部）

このうち、伏見、伊藤、関、平尾、芝、金森の各先生のビデオ映像のダイジェストは、総合学術博物館待兼山修学館の常設展「草創期の大阪大学 創設時を知る先輩方に聞く」のコーナーで視聴できる。

元もこの事業は、大阪大学の創設に関わった名誉教授の方等にインタビューを行い、その様子をビデオ映像として残し映像資料とすること、また当時の研究環境を語っていただき、これを現在の大阪大学の学生へのメッセージとすることは大変重要であるとの、高杉理事の考えによるものである。

最初は映像記録を残すことに主眼が置かれていた本事業であるが、文書館設置準備室が主体となってからは、記録の公開も重視し、インタビュー内容を活字化し、雑誌等で一般に公表してきた。文書館設置準備室では独自の公表媒体

（紀要）を持っていないので、学内関係部局の紀要等に掲載していただいていた。これまでに公表したのは、以下のとおりである（副題は省略）。また、人間科学部の徳永恂・厚東洋輔両名誉教授のインタビュー録は、友枝敏雄人間科学研究科長のご高配により、『年報人間科学・別冊』として2011年3月に刊行する予定である。

- ・菅真城・阿部武司「梅溪昇名誉教授に聞く(1)」(『大阪大学経済学』第58巻第3号、2008年)
- ・菅真城・阿部武司「梅溪昇名誉教授に聞く(2)」(『大阪大学経済学』第58巻第4号、2009年)
- ・菅真城・阿部武司「村田義人氏に聞く」(『大阪大学経済学』第59巻第2号、2009年)
- ・中尾敏充・菅真城・阿部武司「大久保昌一名誉教授に聞く」(『大阪大学経済学』第59巻第3号、2009年)
- ・進藤修一・菅真城「是永駿名誉教授に聞く」(『大阪大学世界言語研究センター論集』第1号、2009年)
- ・菅真城・阿部武司「五島忠久名誉教授に聞く」(『大阪大学経済学』第59巻第4号、2010年)
- ・菅真城・阿部武司「脇田修名誉教授に聞く」(『大阪大学経済学』第60巻第1号、2010年)
- ・進藤修一・菅真城「中岡省治名誉教授に聞く(1)」(『大阪大学世界言語研究センター論集』第3号、2010年)
- ・進藤修一・菅真城「中岡省治名誉教授に聞く(2)」(『大阪大学世界言語研究センター論集』第4号、2010年)
- ・菅真城・阿部武司「大塚穎三名誉教授に聞く」(『大阪大学経済学』第60巻第2号、2010年)
- ・菅真城・阿部武司「小泉進名誉教授に聞く」(『大阪大学経済学』第60巻第3号、2010年)

これらのインタビュー録及びビデオ映像は、大阪大学の歴史の貴重な側面を伝えるものである。ビデオ映像の利用を希望される方は、文書館設置準備室までご連絡いただきたい。

業務日誌(抄) (2010年8月～2011年1月)

2010年

- ・9月3日 文学研究科飯塚一幸教授、文学研究科デジタルアーカイブズ事業の件で来室。
- ・9月7日 熊谷信昭名誉教授(工・総長)のビデオ撮影(第2回)。
- ・9月8日 NHK制作局青少年・教育番組部から湯川秀樹先生在籍当時の理学部の写真について照会。
- ・9月10日 NHK制作局青少年・教育番組部に大阪帝国大学理学部創設当時の写真を提供(10月11日放送の「ハイビジョン長時間特集 ノーベル賞・知の冒険と格闘」で使用)。
- ・9月13日 菅、京都出張。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会平成22年度第2回大会・研修委員会(京都テルサ)に出席。
- ・9月17日 岡田大士氏(中央大学)から、長岡半太郎の写真について照会。
- ・9月23日 菅、東京出張。日本アーカイブズ学会2010年度第1回研究集会「教育研究機関におけるアーカイブズ活動を考える」(東京大学)に出席。
- ・9月24日 岡田大士氏(中央大学)に長岡半太郎の写真データを提供。
- ・9月29日 第20回文書館(仮称)設置検討ワーキングを開催。
- ・10月6～8日 菅、熊本出張。全国大学史資料協議会2010年度総会ならびに全国研究会(放送大学熊本学習センター)に出席。
- ・10月18日 熊谷信昭名誉教授(工・総長)のビデオ撮影(第3回)。
- ・10月26日 21世紀懐徳堂・川人よし恵氏、先端教養科目「大阪大学の歴史」の取材のため来室。
- ・10月29日 学外から旧職員について照会。
- ・11月2日 工学研究科電気系図書室所蔵の古いアルバム等を確認。
- ・11月9日 工学研究科電気系図書室から移管予定の資料を工学研究科資料室で保管。
- ・11月17日 熊谷信昭名誉教授(工・総長)のビデオ撮影(第4回)。
- ・11月18日 基礎工学研究科谷口康昭事務長、卒

業生数調査のため来室。

- ・11月23日 菅、京都出張。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会平成22年度第3回大会・研修委員会(京都テルサ)に出席。
- ・11月24～25日 菅、京都出張。第36回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国(京都)大会(京都テルサ)に出席。
- ・11月30日 菅、南山大学史料室講演会で講演、「大学アーカイブズ『新時代』」。
- ・12月3日 基礎工学研究科谷口康昭事務長、他庶務職員3名、写真閲覧のため来室。
- ・12月9日 留学生から大阪帝国大学時代の学友会、報国会の資料について照会。
- ・12月13日 熊谷信昭名誉教授(工・総長)のビデオ撮影(第5回)。
- ・12月14日 菅、京都出張。全国大学史資料協議会西日本部会2010年度第4回幹事会・第4回研究会(同志社大学)に出席。
- ・12月24日 NHK京都放送局から、番組「こだわり人物伝 益川博士が語る『湯川秀樹』(仮)」作成のための写真借用依頼。
- ・12月27日 NHK京都放送局に写真データ2点を提供。
- ・12月28日 基礎工学研究科竹村事務長補佐、山根庶務職員、基礎工学部50年史作成用写真等借用のため来室。

2011年

- ・1月6日 大村市史編さん室から長岡半太郎、楠本長三郎に関する資料について照会。
- ・1月18日 大村市史編さん室に楠本長三郎の写真データを提供。菅、「アートアーカイブズ概論」において「大阪大学文書館について」講義。
- ・1月29日 菅、京都出張。日本図書館研究会大学図書館研究グループ研究例会「大学図書館から考える文書館とMLA連携」(キャンパスプラザ京都)に出席。
- ・1月31日 医学部附属病院広報評価係から公文書管理法への対応について照会。

移転のお知らせ

大阪大学文書館設置準備室は、2011年4月1日より
箕面キャンパスへ移転いたします。下記住所への変
更をお願いします。

<新住所>

〒562-8558

箕面市粟生間谷東8-1-1 管理棟1階

大阪大学文書館設置準備室

Tel. (072) 730-5113

Fax. (072) 730-5114

大阪大学文書館設置準備室員名簿

室長	阿部武司
講師	菅真城
事務補佐員	田村綾
	中内加奈子

大阪大学文書館設置準備室だより 第8号

発行日 2011年2月28日
編集発行 大阪大学文書館設置準備室
〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町1-32
大阪大学サイバーメディアセンター気付
Tel. (06) 6850-6269
Fax. (06) 6850-6274
E-mail kan@hpc.cmc.osaka-u.ac.jp
<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/archives/top.html>